

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
【部門区分】第7部門第2区分
【発行日】令和7年3月12日(2025.3.12)

【公開番号】特開2023-139338(P2023-139338A)
【公開日】令和5年10月4日(2023.10.4)
【年通号数】公開公報(特許)2023-187
【出願番号】特願2022-44811(P2022-44811)
【国際特許分類】

H 0 1 G 4/30(2006.01)

【F I】

H 0 1 G 4/30 2 0 1 C

H 0 1 G 4/30 2 0 1 D

H 0 1 G 4/30 2 0 1 K

H 0 1 G 4/30 2 0 1 N

H 0 1 G 4/30 5 1 3

H 0 1 G 4/30 5 1 6

H 0 1 G 4/30 5 1 2

10

【手続補正書】

20

【提出日】令和7年3月3日(2025.3.3)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0066

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0066】

このように、セラミックスを溶解する方法により連続率A，Bを算出することで、内部電極12，13の平面視における導電性成分の連続率A，Bを明確に、かつ簡便に算出することができる。なお、上記方法の他、積層セラミックコンデンサ10から内部電極12，13が露出するX－Y断面を切り出し、当該断面をSEMなどによって拡大及び撮像してもよい。この方法では、導電性成分とその他の成分の見た目の違いから、連続率A，Bを算出することができる。導電性成分とその他の成分の見た目の違いが分かり難い場合など、2つの方法から得られた結果に差異があつて疑義が生じそうな場合は、セラミックスを溶解する方法から得られた結果を優先して採用する。

30

40

50